



©手塚プロダクション

戦中・戦後の



©倉金草介/倉金マサ

マンガと子どもたち



マッカーサー記念館



「冒険活劇文庫」
明々社(現少年画報社)刊

～胸ときめかせたヒーロー・ヒロイン～

平成17年 3月5日[土] ▶ 4月10日[日]

【会場】昭和館3階・特別企画展会場

【開館時間】10:00～17:30 (入館は17:00まで)



©田河水泡/講談社



沼野謙撮影(JPS)



©松本かつぢ/
ギャラリーまつもとかつぢ

入場無料



©横山隆一/横山隆雄



【交通のご案内】

電車ご利用の場合
地下鉄九段下駅から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線 4番出口)
JR飯田橋駅から徒歩約10分
車ご利用の場合
首都高速西神田ランプから約1分(九段下交差点)

【有料駐車場】(1時間200円)

普通乗用車専用駐車場(64台)がご利用になれます。



昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 TEL.03-3222-2577 FAX.03-3222-2575
ホームページ <http://www.showakan.go.jp>



戦中・戦後のマンガと子どもたち

戦中・戦後の

胸ときめかせたヒーロー・ヒロイン

このたび昭和館では「戦中・戦後のマンガと子どもたち ～胸ときめかせたヒーロー・ヒロイン～」と題し、特別企画展を開催する運びとなりました。

昭和の初めに少年雑誌ブームが起こり、子ども向けのマンガも数多く描かれ、「のらくろ」「タンク・タンクロー」といった子どもたちのヒーローが誕生しました。しかし、昭和13年の国家総動員法の施行によって、社会や文化などさまざまな分野に統制が及び、マンガや子どもたちを取り巻く状況は徐々に戦争の影響を受けることとなりました。

終戦後、焼け跡からの復興に取りかかった時期に、子どもたちに大きな楽しみを与えたのもまた、マンガでした。娯楽の乏しかった時代、マンガの持つ“笑い”の力、そしてそこに描かれる夢のある世界は、子どもたちに明るさをもたらしました。

戦中・戦後と世相は大きく変わりましたが、いつの時代でもマンガは子どもたちの胸ときめかせるものでした。本展では子どもたちはどのようなマンガを手にしていったのか、また子どもたちはマンガにどのように描かれたのか、マンガと子どもを取り巻いていた状況を、実物資料、写真を交えて紹介します。



イベント情報

紙芝居がやってくる!

▶平成17年3月26日(土)・27日(日)・4月2日(土)
▶会場:昭和館 2階広場

会場では紙芝居の上演(1日3回)の他、メンコ・すごろくなどで遊べるコーナーや、マンガのキャラクターを立看板にし、一緒に写真撮影ができるコーナーを設置します。



講演会

▶平成17年4月3日(日) 14:00～

会場:科学技術館6階 第3会議室

●清水勲先生(漫画史研究者・帝京平成大学教授)「漫画史のなかの子ども漫画」

●講演の後に、戦中のアニメ映画を上映します。

『桃太郎の海鷲』(昭和17年芸術映画社製作。初の国産長編アニメ)



お問い合わせ先: 昭和館学芸部 03-3222-2577

